

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第34週 (8/22-8/28) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		34週	33週	32週	31週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	17	18	15	18
	眼科	5	5	3	5
	インフルエンザ*	27	27	22	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	8/22-8/28	8/15-8/21	8/8-8/14	8/1-8/7	8/15-8/21
			34週	33週	32週	31週	33週
小児科	RSウイルス感染症	○	0.35	0.11	0.07	0.33	0.21
	咽頭結膜熱		0.06	0.11	0.13	0.17	0.29
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.24	1.28	1.27	2.06	1.41
	感染性胃腸炎		2.94	2.17	2.40	3.39	1.96
	水痘		0.35	0.11	0.27	0.17	0.21
	手足口病		1.06	1.17	1.67	2.83	1.24
	伝染性紅斑		0.12	0.22	0.33	0.28	0.15
	突発性発しん		0.76	0.89	0.87	0.67	0.42
	百日咳		0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
	ヘルパンギーナ		1.65	3.06	3.40	4.44	1.82
	流行性耳下腺炎		0.24	0.17	0.47	0.44	0.55
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
眼科	急性出血性結膜炎		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流行性角結膜炎		0.40	0.00	1.00	1.40	1.03
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0.00	0.00	0.00	0.00	0.11
	マイコプラズマ肺炎		0.00	0.00	0.00	0.00	0.89
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(15件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	デング熱	男性	40歳代	病原体遺伝子等の検出
結核	男性	60歳代	IGRA検査等	ウイルス性肝炎	男性	20歳代	血清IgM HBc抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	60歳代	細菌の検出、薬剤耐性の確認、起因菌の判定
結核	女性	30歳代	IGRA検査		男性	80歳代	
結核	女性	70歳代	画像診断	急性脳炎	男性	10歳代	中枢神経症状
腸管出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	70歳代	病原体の検出
	女性	40歳代		梅毒	女性	10歳代	血清抗体の検出
A型肝炎	女性	30歳代	血清IgM抗体の検出	-	-	-	-

・第34週は、結核5件(170)、腸管出血性大腸菌感染症2件(11)、A型肝炎1件(4)、デング熱1件(4)、ウイルス性肝炎1件(2)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2件(7)、急性脳炎1件(22)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(24)、梅毒1件(18)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第34週のコメント

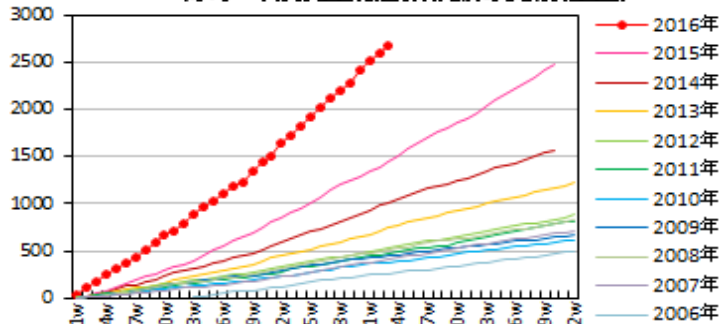
＜RSウイルス感染症＞前週から増加し0.35となった。過去10年の同時期と比べると多い。

トピック

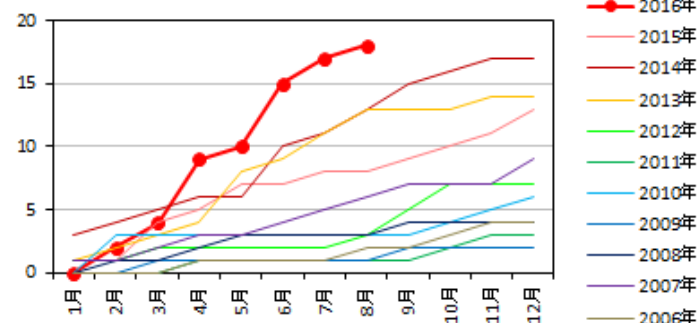
<梅毒>

全国レベルの第33週の累積届出数は2674件で、過去9年で最も多かった2015年を上回りました。都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県の順に多く報告されています。千葉県は全国第7位となっています。千葉市では第34週に1件の発生届があり累計が18件となり、過去10年で最多であった2014年を上回り最多となりました。性別では男性が44.4% (8名)、女性が55.6% (10名)と女性が多くっており、年齢階級別では20歳代 (33.3%:6名)、10歳代 (22.2%:4名)、40歳代、50歳代及び80歳代 (共に11.1%:2名)の順に多くなっています。また、病型は早期顕症梅毒Ⅰ期 (27.8%:5名)、早期顕症梅毒Ⅱ期 (38.9%:7名)、晩期顕症梅毒 (5.6%:1名)、無症状病原体保有者 (27.8%:5名)で、感染経路は性的接触 (88.9%:16名)、輸血 (5.6%:1名)、不明 (5.6%:1名)で、性的接触の内訳は異性間 (62.5%:10名)、同性間 (6.3%:1名)、不明 (31.5%:5名)となっています。

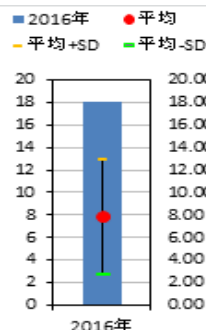
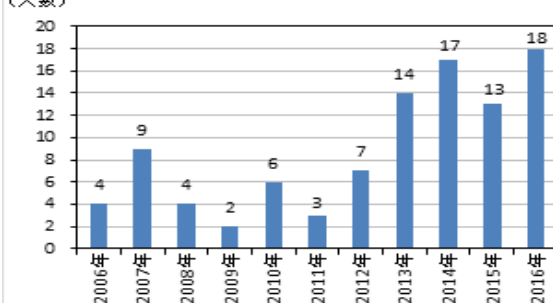
梅毒:年別発生報告累積数の比較(全国)



月別累積届出数の比較(2006年-2016年:千葉市)



発生届出数の推移(千葉市)



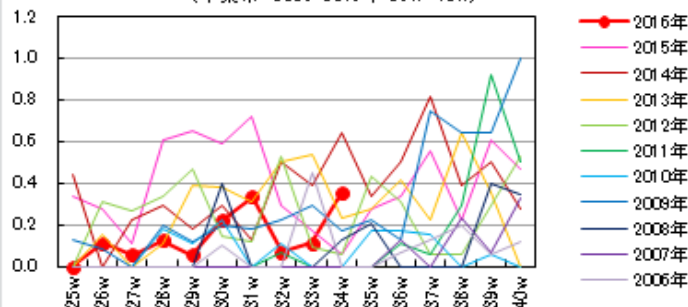
<RSウイルス感染症>

全国レベルの第33週は過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、宮崎県、福岡県、熊本県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。

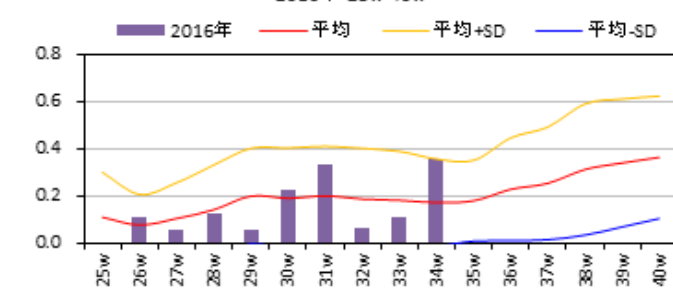
千葉市の第33週は前週より増加し0.35となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区 (1.0/定点)で最多となっており、同区の1歳未満で発生報告がありました。

今シーズンである2015年第36週から2016年第34週までの累積報告数(n=241)によると、性別では男性が51.9% (125名)、女性が48.1% (116名)で、年齢階級別では1歳 (27.8%:67名)、6~11か月 (24.5%:59名)、2歳 (19.1%:46名)の順に多くなっています。

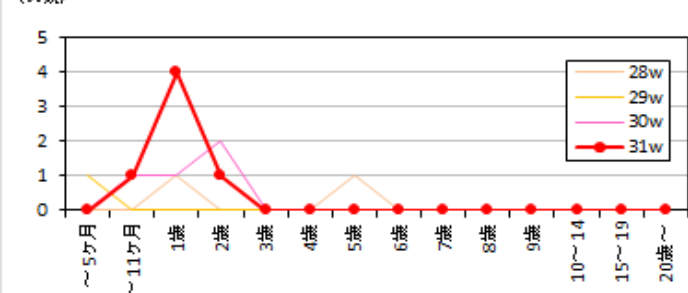
各シーズンの定点当たりの報告数
(千葉市:2006-2016年 25w-40w)



過去10年間との比較
2016年 25w-40w



定点からの報告数の推移(直近4週分)



定点からの報告数
2015年36w-2016年34w n=241

